



田浦 末廣さん
Tanoura Suehiro

〔西寒野区〕

たのうら すえひろ / 西寒野区
自主防災会事務局長。災害時に適切に行動するためにさまざまな訓練を計画し取り組む。

災害時に適切に行動する訓練で いざという時に地域を守る

「訓練を重ねることで組織内に自助や共助の意識が芽生え、『次の訓練はいつですか』と聞かれるようになりました」と話すのは、西寒野区自主防災会で事務局長を務める田浦末廣さん（西寒野区）。

自主防災組織とは、「自分たちの地域は、自分たちで守る」ために、地域で自発的に結成する防災組織のことで、同区では平成24年に結成。昨年1月に体制強化のため、事務局を配置した。

自衛官だった田浦さんは事務局長に任命され、3月には防災の十分な意識と一定の知識・技能を認証する民間資格「防災士」を取得。活動1年目は地区の危険箇所や要配慮者の把握に着手。「災害時に全員が集まれるわけではないので、誰でもできるように」と、地区の看護師などの協力の下、訓練として負傷者の応急手当や搬送などを計画し、

組織全体で取り組んだ。また10月の町総合防災訓練の際は、消防団や区民も参加。災害の状況や要救助者の情報を記載した「状況付与カード」を各班に伝達し、時系列で災害発生からの活動を実践して組織の役割を認識し適切に行動する訓練に取り組んだ。

「訓練は、一度やったら終わりではありません。自信を持つてできるように、経験を積むことが大切です。高齢者を対象に消火訓練なども実施したいです」といざという時に備え計画を練る。

「過疎や高齢化などで、動ける人は少なくなっていく一方です。地域が協力し合っている体制づくりを目標にしています。防災士を目指す人も増えてほしいですね」と、将来を見据える田浦さん。

「まずは、災害がどこに発生しやすいかといった地域の特徴や、ポンプなどの防災資材は何があるかといった『自分の所を知る』ことから、1つ1つやってみませんか」と地域を守るために力強く手を差し伸べる。